



第9図 A, B, C型の気圧曲線の総合

い、即ち強い台風があらわれるときであって、そのときは防災対策上極めて重大な関心を持つべきであろう。

一方速度の方は、第4図、第6図、第8図からみられるように、北緯30度付近から北緯37度付近にかけては、ほぼ2~3度で10km加速する傾向がみとめられるが、それ以北ではかなりのバラつきが多くなっている。このことは台風の速度予想を行なうにあたってとくに注意す

べきことを示すものといえよう。

4. むすび

本報では本邦を通過した顕著台風について、中心気圧の減衰と、緯度別の速度の状況について調査した結果について述べたが、この調査の対象となったのは23個の台風であるので、必ずしも充分とはいえないが、台風予報を行なうにあたって何らかの参考になれば幸甚です。今後資料の充実をはかって補修を加えて行きたい。なお第1報、第2報そして今回の報告を通じ、大方のご批判ご教示をお願いしたい。

参考文献

- 1) 館知之, 1961: 台風に関する2, 3の統計的調査(第1報), 日本気象学会機関誌, 天気, 10, P337-344.
- 2) 館知之, 1961: 台風に関する2, 3の統計的調査(第2報), 日本気象学会機関誌, 天気, 11, P282-386
- 3) 気象庁技術報告第7号伊勢湾台風調査報告(昭和36年3月) P資358-資377.
- 4) 例えば高橋浩一郎: 動気学, 岩波書店: 1955, P228.

【新書紹介】 天気図の書き方と見方

気象庁予報課 予報技術研究会編

B 6版 280頁 恒星社発行 定価 380円

トランジスター・ラジオが普及するようになり、現在では何処でも気象通報や漁業気象が聞けるようになり、登山者や旅行者の間には気象知識が広まって来たことは誠に喜ばしいことである。このため気象に対する関心はますます深まり、一般向きの天気予報をう飲みにするだけでなく、それぞれの目的に合った判断をするために現在の天気状況を、ラジオの通報によって把握しようとする人々が増えつつある。こういう人々のために、天気図の書き方、見方、および利用の仕方を解説したものである。

内容は、第1章天気図の作り方〔I〕、ラジオ気象通報の解説、およびその聞き方、記入の仕方など、第2章天気図の作り方〔II〕、第3章雲と気圧配置、第4章気圧配置の動き、第5章天気図の見方および利用の仕方、等。

気象学の解説書は今までも数多く出版されているが、中学生にも直ぐ出来るように、天気図作業を解説したものは少ない。その点、よい企画だと思われる。また執筆者が予報現業に従事している方々なので、予報法、とくにその具体例は異色あり大変面白い。専門家にとっても、解説などを要求された場合には参考になると思われる。

【新書紹介】 山の気象

山の気象研究会編

A 5版 156頁 恒星社発行 定価 400円

初歩の登山者のために山の気象知識を啓蒙する書籍およびこれに類したものは数多く出版されているが、一応アルピニストと目される登山者のためのものは皆無と云ってよい。本書は登山者のための山の気象の研究と実際に16人の気象知識と登山経験の豊富な人々により書かれたものである。したがってアルピニストと目される方々とかリーダー格になる登山者の必読の書であって、かなり程度は高く、よみでがある。

第1章山の気象統計、第2章富士山の気象、第3章春山の気象(北アルプスと谷川岳)第4章夏山の気象(北アルプスと南アルプス)第5章秋山と冬山の気象(北アルプス・中央アルプス・谷川岳)第6章ヒマラヤの気象(マナスル)となっている。

それぞれの事例により詳細に記録してあるので応用の面には非常に役立ち、また諸資料を忠実に表現してあるので信頼感のもてる書である。不満を云えば著者が多いので全体的に一慣性がなく天気図、連続図等に用いられている記号等も日本式、国際式と混合している。また気象用語、登山に関する用語も初心者としては理解に苦しむ所も多いので簡単な解説を付けると親切ではなからうか。